

保育者養成課程における幼児を対象とした 運動遊びの環境構成に関する検討

青 山 翔*

(2019年11月29日 受理)

A Study on the Environmental Composition of Physical Activity for Early Childhood Children in the Childcare Teacher Training Course

Sho AOYAMA*

The present study examined the outcomes and issues that university students attending childcare teacher training courses can actually obtain by configuring the environment for physical activity of early childhood children. Nineteen second-year university students attending the childcare teacher training course at Hiroshima Jogakuin University worked on creating places of ninja training for children, and observed the video of how the children played. From the results, it is inferred that university students were able to cultivate the viewpoint of creating the environmental composition of motor play by themselves while being conscious of the children's motor development.

Keywords: Physical activity 運動遊び, Early childhood children 幼児, Health 健康, Childcare teacher training course 保育者養成課程

1. はじめに

子どもの体力について、昭和39年から「体力・運動能力調査」が行われている。その調査によると昭和60年頃から続いていた体力低下は平成10年頃に歯止めが掛かり、以後の体力は総合的には向上しているが、昭和60年頃の最高値に回復したテスト項目は少ない¹⁾。この体力低下という問題は、運動面だけの影響だけでなく、肥満や生活習慣病等の健康面、意欲や気力といった精神面などにも悪影響を及ぼす²⁾。

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うためには、特に幼児期において、自分の体を十分に動かし、幼児が体を動かす気持ちよさを感じることを通じて進んで体を動かそうとする意欲を育てることが大切である³⁾。また、遊びと運動能力との関係について、活発な子どもはそうでない子どもと比べて運動能力において優れており⁴⁾、室内遊びより外遊びが好きな幼児の運動能力が高いことが報告されており⁵⁾、幼児の頃から運動遊びに親しむ機会を意識的に確保していくこ

とが大切である。

体力低下を引き起こしている背景には、子どもを取り巻く様々な環境の変化が関係しており、体力低下に歯止めをかけ、向上させていくためには、体力の根底にある様々な環境を整えることが必要となる⁶⁾。しかし、時間・空間・仲間の三間（さんま）がなくなったと言われるように⁷⁾、現在の社会を概観すると、子どもが十分に運動遊びを行える環境が整っているとは言い難い。木谷らは、現代の子どもの遊びの場と種類を親世代が子どもだった頃と比較し、遊び場は、親世代よりも外での遊び、危険な場所での遊びが減少していること、遊びの種類として慣習的な鬼ごっこや木登り等の慣習的な遊びが減少していることを報告している⁸⁾。また、炭谷は、1960年代以前の子どもは道で遊び、その周辺に接続する原っぱや空き地、公園、境内等で遊んでいたが、自動車の交通量が激増したことにより子どもたちは遊び場を失い、テレビ、ゲーム、携帯電話を用いた遊びへと変容してきたと述べている⁹⁾。

このような社会状況を考えると、保育者が子どもにとって運動が楽しく、自信につながる経験になるような

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科専任講師

援助をし、子どもの体力が向上するような取り組みを園で行うことが求められる。そのためには、将来幼児教育に携わる保育者養成課程で学ぶ学生が、幼児の運動発達に関する知識を学ぶだけでなく、実際に幼児の運動発達を意識して環境構成を行う態度を養うことが大切だと推察される。

そこで本研究では、保育者養成課程に通う大学生が幼児の運動発達に関する知識をもとに、実際に幼児を対象とした運動遊びの環境構成を行うことで得られる成果と課題について検討することを目的とした。

2. 方法

(1) 対象者

広島女学院大学の保育者養成課程に通う大学2年生19名に対して、幼児を対象とした運動遊びの環境構成を制作する活動を実施した。

(2) 計画

国立江田島青少年交流の家の職員の方から、「親子で楽しむ忍たま修行体験（2019年10月27日）」というイベントにおいて、運動遊びの環境構成（段ボールを使用した忍者修行の場作り）を広島女学院大学の保育者養成課程に通う大学生に制作してほしいとの依頼をいただいた。そこで、「子どもと遊び」という大学の授業の第1回から第7回の授業において、幼児期の子どもを対象に段ボールを使用した忍者修行の場作りを制作する計画を立てた。以下に第1回から第7回の授業の流れを示す（表1）。

3. 研究の実際

(1) 第1回の授業において

対象となる受講生に対して、幼児期の子どもの運動発達の知識に関する講義を行った。また、国立江田島青少年交流の家の職員の方から「親子で楽しむ忍たま修行体験（2019年10月27日）」というイベントにおいて、運動遊びの環境構成制作の依頼をいただき、本授業の受講者で協力して制作するとの説明を行った。さらに、第2回の授業までに、1人1つアイデアを提案できるように準備するようとの説明を行った。

(2) 第2回から第6回の授業において

受講生は、4人で1つのグループを編成し、考えてきたアイデアを共有した。1つのグループに1つの忍者修行の場作りを行うために1つのアイデアに絞り、制作に取り掛かった。受講生は、第5回の授業まで仲間と協力して、幼児が楽しく運動ができるように一生懸命に制作に取り組んだ。当初考えていたアイデアではうまくいかないことも実際制作する過程で出てきたが、代案を考えて最終的には全グループ完成することができた。

第6回の授業において、国立江田島青少年交流の家の職員の方に広島女学院大学に来ていただいた。職員の方に1つ1つ受講生が制作した忍者修行の場を見て回っていただき、受講生はその説明を行った。そして、職員の方にイベントが行われる国立江田島青少年交流の家に忍者修行の場を運搬していただいた。

(3) 「親子で楽しむ忍たま修行体験（2019年10月27日）」のイベント当日の様子

「親子で楽しむ忍たま修行体験（2019年10月27日）」

表1 「子どもと遊び」の第1回から第7回の授業内容

時間	内容
1	幼児期の子どもの運動発達に関する講義を受ける。また、段ボールを使った忍者修行の場作りに関する説明を受ける。
2	4人で1つのグループ（合計6グループ）になり、段ボールを使った忍者修行の場作りについて1人1つずつ考えてきたアイデアの中からグループで1つにしぼり、グループの仲間と協力して制作に取り組む。
3	
4	
5	
6	国立江田島青少年交流の家の職員の方に広島女学院大学に来ていただき、制作した忍者修行の場について説明を行った。また、イベントが行われる国立江田島青少年交流の家に忍者修行の場を運搬していただいた。
7	親子で楽しむ忍たま修行体験（2019年10月27日）において忍者修行の場で遊ぶ幼児の様子を動画で撮影したものを観察し、振り返りを行った。



写真1 制作の様子①

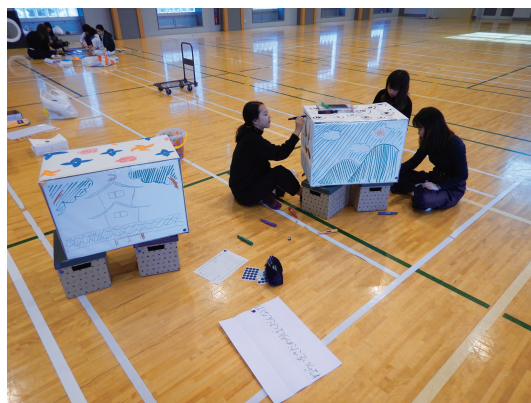


写真2 制作の様子②



写真3 制作の様子③



写真4 制作の様子④

<p>遊び場名 忍法手裏剣投げの術</p>	<p>完成写真</p>
<p>内容 大、中、小のそれぞれの穴の中に手裏剣を一人5個ずつ投げて入れる。</p>	
<p>身に付く動き つかむ、なげる、たつ。</p>	
<p>工夫した点 大、中、小の穴を作ったところを工夫した。難易度がそれぞれ違うので楽しめる。また、投げる位置も自分で選べる。手裏剣は指や手を切って怪我をしないようにテープで巻く工夫をした。</p>	
<p>注意したいポイント or 遊びの展開 必ず的に向けて手裏剣を投げることに、投げる時に膝からはみ出さないようにすること。</p>	

図1 大学生が制作した忍者修行の場①

のイベントには、2歳児（1名）、3歳児（5名）、4歳児（9名）、5歳児（6名）、6歳児（6名）の計27名の子どもとその保護者合わせて約70名が参加した。

段ボールで制作した忍者修行6つの場の体験は、

10：15から10：30までの15分間で、サーキット形式（自分の好きな場に子どもが行き、体験する）で行った。実際に子どもが忍者修行の場を体験している様子を制作した「子どもと遊び」の授業の受講者に視聴してもらうため


遊び場名 ねらいを定めろ！爆弾投げ！	完成写真
内容 ボールを投げて的に入れる。	
身に付く動き なげる、つかむ、たつ、はなす。	
工夫した点 ねらいを定めやすいように、色をカラフルにした。 ボールの数を多くして沢山投げられるようにした。 投げ易いものを2つにして多くの子どもが体験できるようにした。 的が子どもの目線の高さになるようにした。	
注意したいポイント or 遊びの展開 人に向かってボールを投げないこと。順番を守る。	材料 段ボール、段ボールカッター、画用紙（白色、青色、赤色、黄色、緑色）、透明テープ、カラーボール、かご、ブロック、のり、はさみ、カッター、カッター板。

図2 大学生が制作した忍者修行の場②


遊び場名 どんでん走れ！ステップ忍者	完成写真
内容 段ボールの上は踏まないように、「歩く」、「走る」、「跳ぶ」、「後ろ向きで歩く」、「1回とばしてジャンプ」などをさせる。	
身に付く動き とぶ、あるく、はしる。	
工夫した点 慣れてくると、踏まないように走ったり、ジャンプしたりするだけでなく、後ろ向きで歩いてみたり、1回とばしてジャンプするなど、1つの道具で様々な遊びができるように工夫した。1つのことができるようになること、次のことにも挑戦してみたいと思うので、体を移動する様々な動きができ、よりのめり込むことができるように工夫した。	
注意したいポイント or 遊びの展開 順番抜けをする人がいないか見守りながら、ラダーをしている途中にぶつからないように間をあけて行う。 様々な動きができるように展開し、「どんな動きをしてみたい？」と子どもに問いかけ、遊びをすすめる。	材料 段ボール、段ボールカッター、麻ひも、透明テープ、カラーガムテープ（赤、黄、青、緑、銀）、はさみ、カッター、カッター板。

図3 大学生が制作した忍者修行の場③

遊び場名 切って！合わせて！忍者落とし	完成写真
内容 新聞紙で作られた刀を使って、だるま落としのように忍者の段ボールを落とす。	
身に付く動き たつ、つかむ、あてる、たおす、ふる、つむ	
工夫した点 様々な種類の刀を用紙して、子どもが好きなものを置けるように工夫した。また、忍者を2種類作ることで、大人気で楽しめるように工夫した。さらに、段ボールにペットボトルに水を入れて重さをつけることで、3歳から6歳でも成功するように配慮した。 忍者の顔と体の色を合わせて描くことで、子どもにとって、色合わせがしやすいように工夫した。	
注意したいポイント or 遊びの展開 周りに人がいないかを確認してから行う。	材料 段ボール、段ボールカッター、新聞紙、養生テープ、ペットボトル、ブロック、はさみ、カッター、カッター板。

図4 大学生が制作した忍者修行の場④


遊び場名 道具を作れ！忍者パズル	完成写真
内容 忍者にまつわる道具の絵柄になるように段ボールを組み合わせてパズルを完成させる。	
身に付く動き もつ、はこぶ。	
工夫した点 忍者にまつわる道具を数種類考えて、何パターンもの絵柄に挑戦できるように工夫した。2種類のパターンを用意することで、大人で楽しめるように工夫した。	
注意したいポイント or 遊びの展開 絵柄をなかなか合わせられない人には、何の絵が完成するのかのヒントを与えるようにする。	材料 段ボール、段ボールカッター、画用紙、絵の具、透明テープ、はさみ、のり、カッター、カッター板、ブロック。

図5 大学生が制作した忍者修行の場⑤


遊び場名 忍び足で進め！壁くぐりの術！！	完成写真
内容 回転扉を押して扉の向こうに側に進む。左右ジグザグで通り抜けることを基本にしている。	
身に付く動き あるく、おす、くぐる。	
工夫した点 壁それぞれの模様を変えて、興味をひくように工夫した。また、大人でもかがめは通れるほどの高さを出す工夫も行った。さらに、忍び足ですすめというタイトルをつけることで、壁が壊れにくくする工夫を行った。	
注意したいポイント or 遊びの展開 扉が不安定なので、忍び足で進むように促す。	材料 段ボール、段ボールカッター、模造紙（黒、緑、黄色、赤）、ガムテープ、ビニルテープ（黒）、はさみ、カッター、カッター板、のり。

図6 大学生が制作した忍者修行の場⑥

に、幼児が活動する様子をビデオカメラにより撮影した。イベント当日のスケジュールについて以下に示す（表2）。

表2 イベント当日のスケジュール

時間	活動
10：00	・開会行事 ・ウォーミングアップ
10：15	・段ボールで制作した忍者修行の場の体験（サーキット形式）
10：30	・水晶山にて忍者修行
11：15	・閉会行事

4. 結果と考察

親子で楽しむ忍たま修行体験（2019年10月27日）のイベントにおいて忍者修行の場で遊ぶ子どもの様子を動画で撮影したものを受講生は視聴した。それをもとに、自分達が制作した忍者修行の場について、青い付箋に成果、黄色い付箋に課題をそれぞれ記入し、考えを共有した。また、第1回から第6回までの授業について自由記述で感想を記入した。

以下にその結果を示す。

（1）忍法手裏剣投げの術

1）成果

- ・子どもだけでなく、大人も楽しめていた。
- ・段ボールで制作した大きい手裏剣だけでなく、折り紙



写真5 イベントの様子①



写真6 イベントの様子②



写真7 イベントの様子③



写真8 イベントの様子④



写真9 イベントの様子⑤



写真10 イベントの様子⑥

で制作した小さい手裏剣があったので、小さい穴にも入りやすそうだった。

2) 課題

- ・ 的がしっかりと固定されていなかった。
- ・ 手裏剣を投げる位置を示す線がなかった。
- ・ 手裏剣を投げた本人が取りに行っていた。

(2) ねらいを定めろ！爆弾投げ！

1) 成果

- ・ 的の高さが子どもにとって丁度良かった。
- ・ ボールを入れる部分にはっきりと色が分かる画用紙を貼って良かった。
- ・ 2か所的があったので、効率が良かった。
- ・ ボールが沢山あったので、子どもはボールを沢山投げられて楽しそうだった。

- ・色を塗ったり、絵を描いたりしたことで子どもの興味を引き出すことができた。

2) 課題

- ・的が思ったより狭く、小さい子どもにとって難しすぎた。
- ・落ちたボールを集めるのが大変そうだった。
- ・ボールが的に入ってから落ちてくるので、落ちないような工夫をすべきだった。
- ・段ボールの高さを変える工夫も必要だった。

(3) 道具を作れ！忍者バズル

1) 成果

- ・親子で協力して楽しんでいた。
- ・完成した時の達成感を感じている様子が見られた。
- ・子どもが持つのに丁度良い大きさの段ボールだった。
- ・2種類のバズルを用意したことで難易度を子どもが選べたことが良かった。

2) 課題

- ・完成図があるとバズルをそろえやすいと思った。
- ・黒色のパーツが多すぎて、組み合わせが分かりにくかったので、絵柄ごとで色をそろえると良かった。
- ・バズル完成までの時間がかかりすぎて、次の子どもの順番がなかなかまわってこなかった。

(4) どんどん走れ！ステップ忍者

1) 成果

- ・子ども自身が歩きたい歩き方で自由に忍者になりきって進んでいた。
- ・年下の子どもにお手本を見せていた年上の子どもがいて、異年齢での交流ができていた。
- ・年齢の低い子どもでも自分のペースで楽しんでいた。

2) 課題

- ・忍者修行の場だったので、忍者修行の場らしい装飾をするべきだった。
- ・幅が一定だったので、幅を変えたものも用意するとよかった。

(5) 切って！合わせて！忍者落とし

1) 成果

- ・子どもの体格より少し大きくやりがいを感じているようだった。
- ・だるま落としとして成功しなくても、剣で段ボールを打つこと自体に喜びを感じているようだった。
- ・刀を3種類用意することで、子どもが好きな刀を選んでおり、満足している様子だった。

2) 課題

- ・だるま落としというコンセプトが子どもに伝わってなかった。

- ・難易度が高かった。

- ・刀を新聞紙で制作したが、途中壊れていたのも、より丈夫に制作するべきだった。

(6) 忍び足で進め！壁くぐりの術！！

1) 成果

- ・子どもの身長に合った高さでよかった。
- ・壁に背をむけて回転していて、子どもが忍者になりきっていた。

2) 課題

- ・強度が弱くて、壊れやすかった。
- ・様々な高さの壁を作ってもよかった。
- ・壁の両端に押す印をつけるべきだった。

また、自由記述の振り返りから多くの受講生が「子どもの喜ぶ姿を想像して制作に取り組めた」、「試行錯誤して、仲間と協力して取り組めた」、「完成した時に達成感を感じた」、「保育の現場で今回の経験をいかしたい」と記述していた。

以上のことから、幼児の運動発達を意識して運動遊びの環境構成に取り組み、実際に幼児に体験してもらいその振り返りを行うことで、受講生は幼児の運動発達を意識しながら運動についての環境構成を自分で制作するという視点を養うことができてきたと推察される。

さらに、受講生が愛情をもって忍者修行の場の制作を行い、使用する幼児も大切に扱う場面が見受けられたことから、幼児の情緒を向上させることにもつながったことがと推察でき、手作りによる遊び場の有用性を受講生が実践を通して感じていたことが示唆される。

生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で、心と体を十分に働かせて生活することによって培われていくものである。また、幼児期は身体諸機能が著しく発達する時期であるが、幼児は自発的にそのとき発達していく機能を使って活動する傾向があると言われている³⁾。しかし、実際、幼児が運動するために十分な環境を整備することができない園も多く存在すると考えられる。よって、本研究のように運動についての環境構成を自ら制作するという視点を保育者養成課程の頃から実践的に学ぶことが幼児の運動発達において重要であることが示唆される。

本研究では、「忍者修行の場について段ボールを使用し制作する」というコンセプトのもと運動遊びの環境構成について受講生は考えてきた。しかし、自由なコンセプトで運動遊びの場作りを行うことで、保育者養成課程に通う大学生により想像力を働かせて運動遊びの環境構成について考えさせることが今後の課題である。さらに、受講生が今回感じた環境構成制作の成果と課題を踏

まえて、幼児を対象とした運動作りの場作りを行う活動を継続的に行っていくことも今後の課題である。

謝辞

本研究を行うにあたり、ご協力いただきました国立江田島青少年交流の家職員の妹尾剛様、杉本克之様、武原智明様、井口誠文様、望月奏様に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 平成30年度体力・運動能力調査結果の概要及び報告書について、http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2019/10/15/1421921_2.pdf (2019年11月11日アクセス可能)
- 2) 三村寛一、安部恵子、辻本健彦、北野裕大、織田恵輔、原寛：幼児期における運動能力に関する一考察，大阪教育大学紀要，56(2)号，pp. 199-207, 2008
- 3) 幼稚園教育要領解説，http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/04/25/1384661_3_3.pdf (2019年11月11日アクセス可能)
- 4) 小林稔，小橋川久光，高倉実，宮城政也，大城浩二：幼児のライフスタイルが体力・運動能力に及ぼす影響：沖縄県の年中・年長児を対象とした縦断的研究（第1報），琉球大学教育学部紀要，65号，pp. 237-247, 2004
- 5) 伊藤秀志：遊びの相手や内容が幼児の体力・運動能力に及ぼす影響について—子どもの体力・運動能力の変化，発育・発達特性等からの考察—，日本体力医学会，pp. 51-62, 2012
- 6) 平松美由紀：幼児期の身体をはぐくむ実践とは—体育に関する愛好的態度測定の試行—，中国学園紀要，17号，pp. 127-133, 2018
- 7) 村田芳子：「体はぐし」が拓く世界，光文書院，pp. 51-53, 2001
- 8) 木谷忍，木村美智子，今野浩次：子どもの遊びの多様性の喪失について—福島県相馬市での遊びの現状と保護者たちの認識—，農業経済研究報告，42号，pp. 55-61, 2011
- 9) 炭谷将史：自宅における幼児の運動遊び変容までのプロセスモデルの仮説的生成，聖泉論叢，22号，pp. 1-11, 2015